





コンダクター研修会開催

指導 局 古川 綾 祥

平成九年八月二四日「コンダクター」が弾けるようにという特別講習会が鶴宮地域センターで開催されました。洲神先生・龍場先生のご発案による企画です。初心者の方には魅力ある講習会と思っております。会員七三名の大勢の方が参加されました。

最初はコンダクターの弾き方として、前奏の指導で五本の指を使つての指導。この場合小さいコンダクターでは弾きにくいとの事でした。次に漢詩二題「川中島」「月夜舟行」。俳句「夏草や」「信濃では」の二題。どちらでもドレミで指導されて理解し易かったと思います。俳句は一般に陽旋律です。戸惑つた方もいました。次が先生の指名を受けた方が漢詩と俳句のどちらかを一吟しその伴奏を参加者全員で弾き練習を重ねました。

最後に洲神先生が「荒城の月」の符を黒板に書いて、皆で弾いて楽しんで頂けたようです。和気あいあいとした雰囲気の中、参加者皆様の研修を終え充実感があふれていました。今回の講習会は大成力であつたと思います。両先生のご熱意ある指導の賜と心から感謝申し上げます。

第二回目の伴奏研修会に出席して

コンダクターは初めて弾く楽器である。詩吟の練習時にいつも荒井先生が簡単そうに弾いておられる手元を見ながら吟じてますが、いざ自分で弾いてみると中々指づかいがうまくいかない事に気がつきました。どこもない指先で前奏「ミファ」や「ドミファ」位は何とか指は動くが、段々音階が多くなるにつれて指がつかない行かない。理事長先生が「ドミファアラファアミ」とか「ドミファアラシラファミ」と読まれるのを戸惑いながら追いかけるのが精一杯でした。逆から弾いて戻ってくるのもぎこちなく指は上手に使えない。楽譜を読みながら指先で音階をさがしながら弾くという作業に必死で、頭を上る余裕がない。音階だけで「川中島」を弾いている時は何とか弾くことは出来ますが、いざ吟者に合わせて弾くと余韻の音階が間に合わなくて、上手に弾いてあげられずパニックの連続でした。何人か同じ曲をくり返し吟じたのを弾いているうちに、少し指の動きもスムーズになる。やはり「習うより馴れよ」と理事長先生のおっしゃるとおり、何でも繰り返し練習をしないとだめなのでしょう。まだ、はじめたばかりの初歩の段階ですので、このままでは終わりにしないでほしいと思います。こういう研修会が行なわれるのはたいへんうれしく思います。

理事長先生の説明もわかりやすく、又、会長先生は会場を見て歩いて下さり、音階を書き添えて下さったり、自分の使いやすい指で弾いていいんですよと言つて下さつて指の使い方がスムーズになりました。良い企画に参加させて頂き感謝すると同時に頑張らなくてはと思う一日でした。(V・T)

奉吟会創立二十周年記念吟道大会開催

奉吟会創立二十周年記念吟道大会が、和光市民文化センターにて開催されました。当日は秋晴れの好天気。恵まれの創立二十周年に相応しい一日となりました。百六洲神理事長、会長をはじめとし二〇名の会員が参加しました。当会でははじめの試みでもある指揮者入り合吟では、たくましい日本の象徴でもある「城」を吟じ、拍手喝采となりました。指揮に合わせた掛け合いのこの吟は、高レベルであり完成まで並み大抵のものではありませんでした。特に指揮者の努力には頭が下がる思いです。吟者の皆様、又、ご指導下さいました会長先生、本当にお疲れ様でした。(広報局)

乃木神社奉納吟を終えて

若草教場 廣 田 美恵子

初秋の候と云うのに朝から肌寒さを感じて、夕方にはなお一段と冷え込んで来ました。歳かの内に奉納吟が始

まり素晴らしい吟が次々と奉納されました。マイクが一本しか無いための流派の方々の合吟は、マイクを使用した人だけの声が大きく入り、合吟になつていない様子でした。たかがマイクと思つておりましたが、合吟の時のマイクの使い方の難しさや、マイクの大切さをつくづく感じさせられました。初めての奉納吟なので余計心配になり緊張しておりました。

いよいよ雨洲吟道会の出場となり、理事長先生を先頭に先輩方と六人でマイクを使わずに「神州」の合吟を始めました。今までは騒がしかった口も鳴き止み、会場がシーンとなり、乃木神社の境内に響きわたる素晴らしい吟であつたと思えます。さすが本会の両先生が指導される先輩方に敬服したと思います。又、吟に合わせ將軍も喜ばれたことと思えます。



平成九年度秋季昇段審査会開く

平成九年一〇月二二日(日)

部の							少年の部	級名
初段	二段	三段	四段	皆仁	九段	秀伝		
初段 八名	二段 七名	三段 三名	四段 二名	皆仁 五名	九段 二名	秀伝 四名	初段 八名	二段 七名
中 段 一〇名	五 段 一一名	六 段 一七名	七 段 二名	総 係 名	助 教 授 一 名	教 授 八 名	中 段 一〇名	五 段 一一名
八 段 四 名	準 師 範 名	師 範 二 名	計 七 九 名	認 許 委 員 会 を へ て	計 二 三 名		八 段 四 名	準 師 範 名

正会員五四名となる

平成九年度正会員に 原玉智祥(龍陽会)さんが入会されました。ご協力ありがとうございます。

(指導局)





出かけた。丁度その日は、サイパン島玉砕五十回忌の遺族関係者の集いがあり、木陰で私は眺めていた。式典も終りの頃、演奏があり、続いて詩吟を朗々と吟じる方の声に聞き入って、胸に熱いものを感じた。所屬している「かがり火の会」の名簿を繰った。「かがり火の会」は戦死した兄を持つ妹たちの会である。名簿の中にサイパン島で兄を亡くした「田中うめ」さんに電話を入れたところ、その日は千鳥が洲の式典に参列していたとのこと。八王子教場の橋本先生が、千鳥が洲で吟じられた先生であつたことを知り、不思議な縁を感じて頂いている。「九月十日」菅原道真」を先ず教えて頂き、以来四年の歳月が過ぎました。古稀を過ぎての入門は、一年一年覚束ない足取りであるが、中伝、五段の「水」号も頂いた。詩吟に感じる強弱の哀調が心を惹いて止まない。

去年の今日は松の間に待す  
「苗」の歌一首選に預る  
恩賜の詩筒今ここに在り  
捧持して毎日栄光を拝す  
「九月十日」菅原道真」の名詩に歌会始入選の栄を挿入させて頂いた。

詩吟と出合えて

船橋湊教場 鈴木昭洲

定年まで片手で数えられる歳に、偶然に詩吟の誘いに乗ったことがきっかけで、早くも二年が経過しております。詩吟と酒吟の組合せと年一回の親睦旅行（月積立三千円）。教室のある日を心待ちにしている日々です。齊藤孝城先生と会員六名のなごやかな雰囲気の中、時には厳しい指導もあり共に一生懸命勉強しております。日頃カラオケでのレパートリーは三曲程度のみですが、お酒の力を借りて歌うことは大好きです。反面、詩吟となるとカラオケのようにはいかず、宴席で何回かは聞いたことはあり興味は以前から持っていました。いざ自分がやるとなると大変難しいものと改めて知りました。平成八年の秋、初めましての昇段審査会と温習会に緊張と不安を抱きながら出陣した折に、足はガタガタ、手はブルブル。日頃の練習の成果の半分も出ずことのない自分自身には、はがゆきを感じた私とは対照的に、会員皆様の朗々と吟じる詩吟に感激をした次第です。

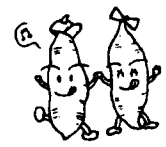
私の初舞台、初吟題の  
幾たびか辛酸を歴て志始めて堅し  
西郷南洲  
我が家の遺法人知るや否や  
丈夫は玉碎するも軛全を愧ず  
児孫の為に美田を買わず  
は、一生忘れることの出来ない詩吟となること間違いない。無事に終えたことを良い経験として、皆様の指導を仰ぎながら今後の健康維持と楽しみの一つにするために、益々精進して一歩一歩前に向かって行く決意を新たにしました。詩吟と出合って六十に手が届こうとしている歳に。

芋羊羹を作ってみませんか

中町会 小泉清水

ほっかほかの焼き芋のおいしい季節です。さつま芋は大量の食物繊維やビタミンを豊富に含み、美容食として女性に人気があります。家庭に好評の芋羊羹の作り方を紹介します。急なお客や子供のおやつにどうぞ。

・さつま芋 1kg  
・塩 少々  
・焼みょうばん 少々  
・小サジ一杯  
・砂糖 百六〇g  
・水 五〇ml



皮を厚めにむいたさつま芋を二輪の輪切りにする。二輪の水に大サジ一杯の焼きみょうばんを入れ、切った芋を二時間程漬けておく。さつま芋を良く水洗いし、水気を切って布巾に包みやわらかく蒸す。熱いうちに裏ごしし、分量の水で粉寒天を煮溶かし、砂糖と塩少々を加え、分量の水で粉寒天を煮溶かし、砂糖と塩少々を加え、熱いうちの裏ごしがコツ！

♪ 詩歌投稿 ♪

俳句 八王子会 中島 渡水  
ロッキーの 大氷原で 清水酌む  
故郷の 景色も届く 新茶かな  
ペランダに 小さく泳ぐ 鯉のぼり  
薫風を K点越えて 舞い降りる  
百歳も 青春なりと 菊日和

感性豊かな吟道を歩こう

炎暑のなかで、八月十日千葉地区合同暑氣払いが盛大に開催された。一吟づつ番組は進みHさんの番である。頼山陽作「青山の歌」が始まった。山陽十たび往返。山翠は依然たれども我は白鬚。名吟が続く。故郷に親。ここでHさんは、溢れる涙に詰まっていた。一瞬会場が静かになる。嵩ぶる感情を抑えて。親在世ども更に衰老。...



再び名吟は続く。母親を想う心情は吟声に表れて、見事な吟は万雷の拍手に迎えられた。今は亡きご母堂に捧げる鎮魂の曲である。そうだ！これこそ吟道の神髄ではなからうか。豊かな感性あればこそ詩情豊かな表現が出来るものである。Hさんは、ご母堂を亡くされて旬日を出で6ずの出来事である。今改めて「冥福をお祈りします。

美しいものに接したらあゝ美しい、きれいと思う。人が優勝したら「おめでとう」といえる素直な気持が欲しい。稽古のときに黒板に書くなどして喜びを分かち合いたいと思っても、何の反応も無い教場があることは、真直に喜び合いたい。

吟は、不思議なものである。悲しいとき・辛いときは力を与えてくれる。慰めてくれる。嬉しいときは、その喜びを倍加してくれる。二十一世紀は、感性豊かな時代にしようと呼ばれて久しい。吟道に勤しむ同志我々は、物質文明に溺れることなく心豊かな時代を築こうではありませんか。(Y)

次号(三十号)の原稿締切は二月末日まで

投稿をお待ちしております。投稿された原稿は極力当該号に掲載するよう努力しておりますが、紙面の都合上次号に掲載させて頂くこともありますのでご了承願います。

編集後記

会員皆様のご協力により「会報十九号」を発行する事が出来ました。今回は「詩吟にまつわる思い出」と題し原稿募集をしたところ、その反響が大きく広報局としましてこの上ない喜びです。ご投稿頂いた作品一編一編を丁寧に読み、心が暖まる思いでした。十九号発刊にあたりスタッフ一同努力を重ねて編集にあたりましたが、不備な点も多々あると思えます。どうかご容赦下さい。最後にご協力頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。(広報局)